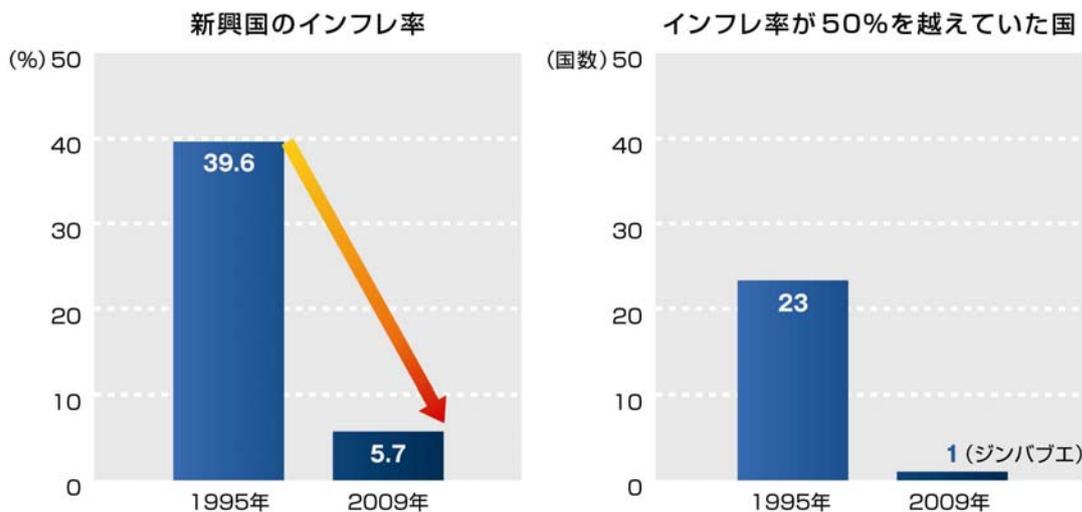


## 景気回復に伴う新興国の利上げ

インドやブラジルなどの新興国が金融引き締め動きを強めています。金融引き締めとは、中央銀行が金利を引き上げたり、お金の供給を抑えたりする政策で、物価の上昇（インフレ）や景気の過熱を抑えることなどを目的としています。

主な国を見てみると、4月にインドが2ヵ月連続の利上げを実施し、政策金利を5.25%としたほか、ブラジルも約2年ぶりの利上げを実施し、政策金利を9.5%に引き上げました。中国では、中央銀行が民間の銀行から強制的に預かる資金の比率を示す「銀行預金準備率」を今年に入って3回引き上げています。

新興国は過去に急激な物価の上昇で苦しんだ国が多数ありましたが、状況は変わってきています。1995年にはインフレ率が50%を越えていた国は23カ国ありましたが、2009年はジンバブエだけになりました（IMF、一部推定値）。インフレ抑制を達成してきた新興国が多いことが分かります。



出所：IMF（2010年4月現在）。新興国のデータはIMFのエマージング諸国に分類された国。

一般に利上げなどの金融引き締めは、株式市場や債券市場にマイナスの影響を与えることもあります。しかし、新興国の金融引き締め動きは、金融危機に対応した低金利政策を続ける先進国に比べて、景気回復が先行していることを示すもので、持続的な経済成長にとってはプラスの影響となると考えられます。

新興国の債券利回りをウェブサイト「グローバルマップ」でチェック [www.gsam.co.jp](http://www.gsam.co.jp)